

# ナツハゼのさし木増殖技術

福島県林業研究センター 林産資源部

部門名 林業—特用林産—増殖・繁殖

担当者 長谷川孝則

## I 新技術の解説

### 1 要旨

ナツハゼは高い食品機能性を有する特用樹である。難発根性のためさし木増殖は困難といわれてきたが、さし穂の条件等を検討することにより実用的なさし木増殖技術を開発した。平成 25 年度試験で確認した4系統における発根率及び得苗率(※発根良好で苗として使用可能なものの割合)は、発根率が 68%~100%、得苗率が 39%~89%であった。なお、発根率及び得苗率は系統ごとに差が見られた。

#### (1) さし木の方法

緑枝さし(※当年生の新梢をおおむね初夏に採取して行うさしつけ方法)

#### (2) 穂木の条件

良好な発根が期待できる穂木の好適条件について検討した結果、以下の条件を満たすもので良好な成績を得ることができた。採穂適期の指標にはブラックチップ(※新梢最先端部の組織が乾燥変色したもの)の状態を用いた。

発育枝新梢の先端部分であること・ブラックチップの状態は形成から着生の段階にあり脱落はしていないこと・枝組織は軟弱ざみであり先端に着生している葉は柔らかく赤みがかっていること・節間が間延びしておらず食害及び虫等の付着・キスがないこと。

#### (3) 穂木の調製方法

状態の悪い葉のみ葉柄着生部位から切除する・年次界を斜めに切断して返しをつける・軽い流水状態とした溜め水に2昼夜(48時間)浸す・インドール酪酸 100ppm 溶液に1昼夜(24時間)浸す。

#### (4) さしつけ床

小粒の鹿沼土及びピートモス混合培養土を1:1で配合し 7.5cm 径スリットポットに充填したものを使用した。

#### (5) 今回実施した管理方法

遮光率 85%の被覆資材で覆ったパイプハウス内に内フレームを設置。保湿のため内フレームを不織布シートで被覆した中にさしつけ床を置き、適切な水分管理を行うため細霧ノズルとタイマーを利用した自動灌水方式で散水管理を行った。散水時間等設定は、穂木の状態を確認して適宜調整した。

## 2 期待される効果

- (1) これまで困難とされてきたナツハゼの栄養繁殖が可能となるため、優良系統の形質固定ができる。
- (2) 優良系統から収穫される高品質な果実の増産が期待できる。
- (3) 特別な技術及び資機材を要しないため、一般生産者が取り組みやすい。

## 3 適用範囲

県内ナツハゼ生産者及び生産希望者

## 4 普及上の留意点

上記採穂条件を満たす穂が発出している個体は少ないので、採穂を行う場合はせん定などにより新梢を発生させておくことが必要である。

## II 具体的データ等

表-1 系統別の発根率及び得苗率

発根 調査年月日	No.	採穂木	採穂年月日	挿付年月日	特徴 ブラックチップの状態	調査 本数	発根 本数	得苗 本数	発根率	得苗率
H25.12.2	1	系統 1	H25.5.20	H25.5.23	脱落前～形成前	28	23	16	82.1%	57.1%
H25.12.2	2	系統 2	H25.5.27	H25.5.30	脱落前	28	28	25	100.0%	89.3%
H25.12.2	4	系統 3	H25.5.28	H25.5.31	脱落前	28	27	20	96.4%	71.4%
H25.12.2	3	系統 4	H25.5.28	H25.5.31	脱落前	28	19	11	67.9%	39.3%



写真-1 発根の状況(系統3)



写真-2 管理の状況



写真-3 ブラックチップの状態



写真-4 調製が終了した穂木

## III その他

### 1 執筆者

長谷川 孝則

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 21 年度～25 年度
- (2) 研究課題名 ナツハゼ増殖技術の開発と優良品種選抜

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 平成 25 年度福島県林業研究センター試験成績概要